

## ○7番（古川盛義君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、私の一般質問を開始させていただきます。

市民病院問題調査特別委員会の黒岩委員長の後でございますので、大変やりにくうございます。今、委員長も言われたとおり、今後の医療というのは外国に倣い、地域医療を専門にするホームドクター制度に移行していくのではないかと私も同じような考えを持っております。

私住んでおります武内は、ここ約10年ぐらい病院がございました。医療の空白地帯ということで、町民の皆さんは病院を、病院をとという願いをしたわけでございますが、ことしの秋ごろにやっと病院が開院する運びになりました、診療所でございます。今、建築中でございます。私も武内町民の一人として待望の病院でありますので、期待をいたしておるところでございます。

そこで、本題に入りますが、本年2月22日、23日、24日に世界一登り窯祭りが開催をされました。今までにない大盛況のうちに終わることができました。これも、ひとえに武雄古唐津協同組合の皆さん初め、オール武雄の窯元の皆さんの御協力と武雄市消防団、九州各地からのボランティアの人たちのおかげだと深く感謝を申し上げます。

また、地元の区長会、公民分館長会、婦人会、各種団体を総動員して準備をしていただきました。特に飛龍の飾りをつくっていただきました竹細工師の池田さん、それから、火柱を立ててもらった造園業の横田さんなど、多くのイベントを盛り上げていただきました。この場をかりて厚くお礼を申し上げます。

第11回の登り窯祭りを総合して、どのような感想をお持ちなのか、市長、それから実行委員長であります大田副市長、それから担当部長にお尋ねを申し上げます。

## ○議長（杉原豊喜君）

大田副市長

## ○大田副市長〔登壇〕

市を代表してお答えさせていただきます。

1年ぶりの復活、飛龍窯祭りの開催、復活でございました。まずは、何よりもこれまで10年間という長きにわたり多大な御尽力いただきました武雄古唐津協同組合の皆様方はもちろんのこと、地元武内町の皆さん方に引き続き御協力いただいたことに対しまして感謝申し上げます。

次に、合併により区域が広がりました。今回は山内町とか北方町からも広く市内全域から協力窯元、それから関係団体の御協力をいただきました。改めて感謝申し上げます。

私どもの感想といたしましては、1点目は1,500本の灯籠の光で幻想的に夜を照らしました。これについて、非常に評判がよかったと認識しております。

それから、3本の火柱と塚崎太鼓の共演。これにつきましても、地元の協力、地元の消防

団、それから地元の区長会の皆様方の協力をいただきました結果、非常に好評だったと認識しております。

それから、焼きぶりにつきましても、参加者の作品が非常にうまく焼き上がっているという好評でございました。

それから、あわせてのイベントといたしまして、九州三都物語、プレイベントといたしまして湯布院温泉とか、それから杖立温泉の皆さんにおいでいただいて、かまくら談義を実施いたしました。これについても非常によかったと思っております。さらに、結果的には従来の2万人程度のお客さんから3万5,000人程度のお客さんになっております。来場者がふえております。

こういう結果といたしまして、私は大きな事故もなく大成功だったと認識しているところでございます。

以上でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

7番古川議員

**○7番（古川盛義君）〔登壇〕**

1月15日の空たきの準備から、窯詰火入れ式と、火入れをいたしましてから80時間、たきっぱなしにたくわけでございます。それで、窯出しということで2月21日に窯出しをいたしました。窯出し展の2月22日は晴天に恵まれたんでございますが、23日はテントを吹き飛ばすような強風、24日は最悪、雪が舞うというような天候でございました。しかし、来場客は過去最高の3万5,000人ということを知り、驚いております。

私も初めての経験でございますが、交通渋滞でとにかく飛龍窯に行けないという車が約2キロにわたって並んだわけでございます。こういう光景は、とにかく私、武内で初めて見るわけでございます。

そこで、その飛龍窯へ行く道路の一部がちょっと狭いところがありますが、今後どのように改修をしていかれるのか、まずお尋ねをいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾まちづくり部長

**○松尾まちづくり部長〔登壇〕**

お答えいたします。

議員御指摘の一部狭い道路という御指摘の線につきましては、市道黒牟田線のことじゃないかと思いますが、この市道黒牟田線につきましては、これまで用地交渉がちょっと難航しまして、完成に至っていなかったわけですが、やっと交渉が完了しましたので、早速工事に入って完了させたいというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

飛龍窯祭りがまだそのようにあると、大渋滞を起こす可能性もありますので、ひとつよろしくお願いを申し上げます。

それから現在、竹古場キルンの森運営協議会が指定管理者として、公園と飛龍窯の工房の管理、運営をいたしておるわけでございます。飛龍窯は市の管理下にあるわけでございます。武内町としては大切にしているところなんです、何せ大き過ぎまして、たくにしてもとにかく人手、人もかかります、金もかかります、時間もかかります。

それで、市のほうの意見として毎年たくなのはという意見があるそうでございます。1年、2年、間をあけても飛龍窯が大丈夫なのか、1年、2年あけたがために、また修復をせないけんと、金がかかるようなことはないのか。そこら辺を窯元とよく協議をしていただいて、今後決めるべきと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

窯を毎年たかないでもてるかという話でございますが、これについては、私も何回となく窯元さんにお尋ねをしております。これについては問題ないだろうという考えでございます。

それから、今後の飛龍窯の祭りの関係でございますが、後について今のところは具体的に決まっておりますが、今後、地元武内町、それから協力窯元、そこら辺の意見を聞きながらどういうふうにやったらいいのかについては検討したいと考えています。ただ、私も11回の窯祭りの中で6回ほど担当をしておりますけれども、とにかく労力がかなりかかります。うちの担当のほうで試算をしたところ、総経費が1回の飛龍窯祭りで約1,300万円ほどかかるということで、表面的には飛龍窯祭り実行委員会の負担金が200万円を済んでいるわけですが、職員の人件費、これについては担当の職員の人件費、それから超勤の手当、そこら辺を含めると約890万円程度かかると。それから、窯元さんの窯詰めとか、あるいは窯たき、そこら辺の日数で単価を出しますと、約260万円程度かかる。そういうことで、かなりの経費もかかりますので、そこら辺の費用対効果を含めて、今後十分に検討をして、今後どういうふうにするかというのを考えていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

今後、検討をするということでございますが、5月28日に飛龍窯の実行委員会がありました、そのときもです。もっとごとって来てからやなし、まっと早うその連絡ばしてくれん

ばというような意見が大分出ておりました。今後、検討課題として十分御検討をいただきたいと思います。

それから、祭りに来られたお客さんが竹古場キルンの森公園というのはどけああとですかと聞きんさあわけです。同じ竹古場と書く場所が伊万里にもありますし、唐津にもあります、読み方は違います。伊万里のは公園までついております。

でございます。以前、市長は名称の変更をどうだろうかと言われたことがあります、もう少し飛龍窯公園などの名前でされてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

基本的に、その名称というのは非常に重い意味がありますので、つけられた方の思い、そして、そういう地元の皆さんたちがそれを支えている思いがありますので、まず、その市民、とりわけ武内町、地元の皆さんたちがどう思っているかといったことについて、きちんと耳を傾けたい。その上で、今のままでいいということであれば、今のままでいいと思います。その上で変えたいということであれば、それは地元の意向を第一にしたいというふうに思っております。あくまでも名称を今持つておられるのは武内町の皆さんでありますので、その思いを大切にしたいと思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

7番古川議員

**○7番（古川盛義君）〔登壇〕**

わかりやすい名前になればと思います。

それから、祭りのときに食育課で、食べ物と器の食育講座、世界でたった一つのマイ器コンテスト、山菜や地元野菜をマイ器で食べよう、窯の中で食育講座というようなイベントが行われました。2月でしたので山菜はなかばいと言いましたが、材料集めから大変であったと思いますが、その成果、反響、参加の人数あたりわかりましたらお答えをいただきたいと思えます。

**○議長（杉原豊喜君）**

藤崎こども部長

**○藤崎こども部長〔登壇〕**

お答えいたします。

食べ物と器の食育講座については、2月23日、24日、飛龍窯第3袋で開催したところでございます。主に、飛龍窯で焼形した器を使つての児童、小学生とその家族を対象に行いました。地元武内町のボランティアの方々の御協力のもと、1日目は「山菜摘みで春を感じよう」と題し、飛龍窯周辺を散策して、山菜摘みと摘みたての山菜をてんぷらにしての食育

を行ったところであります。2日目は「元気なおばあちゃんをつくる漬物づくり体験」と題し、地元野菜を使った漬物教室を行っております。そのほか、2日間を通して一般参加者を対象に、窯の中での茶わんやはしの持ち方などのマナー講座、武雄の焼き物によるテーブルセッティングの展示や食育クイズラリーなどを行ったところであります。参加者は、市内外から2日間で120名、展示見学者を含めると300名を上回ったところであります。

参加者の感想といたしましては、場所が窯の中で幻想的な雰囲気の中、器を使ってのマナーやテーブルセッティングなど非常によかったという感想や、飛龍窯周辺の山菜や野草について学習やその調理方法、地元野菜を使った漬物の作り方などを学べてよかったと、大変好評であったところであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

11回の飛龍窯祭りをこのように、いろいろな事業で終えることができたんですが、これも関係者の皆さんのおかげであります。ここで、この場をかりましてお礼を申し上げて、次の質問に入りたい……。

○議長（杉原豊喜君）

ここで議事の都合上、13時20分まで暫時休憩をいたします。

休	憩	11時57分
再	開	13時21分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き午後の会議を開きます。

一般質問を続けます。7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

先日、武雄市生活排水処理基本計画書というのをいただきましたが、下水道課にお尋ねをします。周辺部の生活排水処理はどのように考えておられるのかお尋ねをいたします。

これは私の一方的な主観でございますが、松浦川がちょうど若木の荻ノ尾堰を過ぎまして多々良のカーブをして松浦町に至るわけでございますが、夏場になりますと藻がとにかく発生をしておりました。近年、去年ぐらいから少し少なくなったような感じも受けております。これも山内町の農排の効果かなと思っておりますが、武雄市は六角川と松浦川の最上流にございます。きれいな水を下流に流すという義務もあるんじゃないかと考えます。

そこで、周辺部の生活排水処理対策をどのように進められるのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

周辺部の生活排水処理の対策についてお尋ねがございました。

私どもといたしましては、市町村設置型浄化槽の事業実施は平成21年度から具体的に事業実施に係る諸問題の解消、解決を図りながら行っていきたい、実施してまいりたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

市町村型を導入するというところで御答弁をいただきましたが、周辺部の整備というのは大変おくれております。早急な対応が必要だと思っておりますが、初年度、次年度とずっと進んでいくわけですが、その規模はどれくらいをお考えでございましょうか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

市町村型の事業につきましては、先日、議員にお配りしました排水処理基本計画、これに掲示をしておりますが、目標としましては年間150基を目標としております。それでもって目標年次を20年後の平成40年と決めて、それまでの間に3,000基を設置したいというふうに考えております。これをもちまして、周辺部の水洗化率が66%をちょっと超えるぐらいになるんじゃないだろうかというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

20年かかって66%ということですが、まだ3分の1残るわけですが、とにかくこの3分の1が少しでも少なくなるように努力をしていただきたいとお願いをしておきます。

それからです。この事業をするときに個人負担といいますか、個人が負担せないけん部分がどれくらいになるのか、試算をしてあればお答えをいただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

個人負担につきましては条例事項でございまして、議会に諮らんと、今、即答できませんけど、一応公共下水道、あるいは農排というところが1世帯当たり15万円という負担金が条例で定められております。そこら辺の数字が参考になるんじゃないだろうかというふうに思

っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

そこら辺の基準で、とにかく早急に生活排水の処理ができますようお願いをしておきます。

それから、これは農林業の質問に移りますが、先日、大田経済財政政策担当大臣が日本経済の再生は農業の活性化以外に考えられないと、内需を拡大せないとというようなことを言われておりました。武雄の初代の市長でございます中野市長も、周辺の農業従事者が金持ちになって武雄市のまちの中で金を使うようになると武雄市の発展はないと言っておられました。

市長も先日、武雄の基幹産業である農業の発展がなければ地域再生はあり得ないと、非常に農業に理解を示していただきました。レモングラスも一つ的手段でございますが、まず、武雄市の基幹産業であります米、麦、大豆というのが最も大切であろうと私は考えます。武雄の強い農業を育てるために、市長はどのようなお考えをお持ちであるかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は農業については、このように考えております。1つは、攻めの農業であります。その攻めの農業に従事していただく方は、きちんとやっぱり所得を上げなければいけない。例えて言うと、例えば、新潟の魚沼を例にして出すと、新潟の魚沼のお米は京都のいろんな1泊4万円から8万円ぐらいする旅館に直接卸しているわけですよ。だから、そういうふうにお金になる米、あるいは麦、そして大豆もあるかもしれません。今、山内町ではそういう動きが出ています。県内の大豆を使った非常に味のいい、そして健康にいいお豆腐ができて、それが売れているということからすると、私は攻めの農業ということに従事をしていただく方を支援すると。

それともう1つは、守りの農業であります。守りの農業については、これは国土保全と直結する話でありますので、こういったところには、農水省、県、あるいは市になるかもしれませんが、農業を守っていただく、これはすなわち国土、田舎、暮らし、文化を守っていただく観点から、その農業について従事をしてほしいということで、今後2つに分かれていくと思います。農産業としての農業と、もう1つは国土保全としての農業と。

今まで日本がなぜ失敗していたかということ、これをごちゃまぜ、チャンポンにしていたから私はだめだったというふうに思っています。これは国政における農業が時代に対応できな

かった、その結果として40%を切る自給率、そして、カロリーベースで言うと二十七、八%になっています。これがそういうふうな経過だというふうに思っておりますので、これから先、私としては、ちょっと今、官房長官が減反政策について触れられております。これについても、本当にそれがいいのかどうかについては現場の意見、そして、もう少し私も勉強してから具体的な提言と行動に移ってまいりたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

今、市長が言われましたとおり、農地の荒廃など進んでおるわけでございます。

そこで今、武雄市も取り組んでおりますが、農地・水・環境保全向上対策事業というのが5年間で、あと4年行われます。水路の整備、それから側溝、農道の整備など多様なものに使えるわけでございます。

しかし、この農地・水・環境保全向上対策事業だけで十分だということは、まずないわけでございます。従来の農林事業と連動をさせてやらなければ効果は半分になると考えます。いろいろ手間はかかるとは思いますが、地域にとってそのような連動した事業が行えるようなことがないのかどうか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

農地・水の事業につきましては19年度からスタートしまして、基本的にはこの農地・水の事業でお願いをしております。これについては、市費の4倍の事業ができるということで武雄市内では全体で74地区ございまして、19年度、それから20年度は今申請中でございますが、約1億円の事業費になっております。

そういうことで、基本的にはこの事業でお願いしておりますが、どうしても取り組みがでないものもございまして、それにつきましては、市の単独事業とか、あるいは原材料支給、それにため池等につきましては国、県の補助もございまして、採択要件に該当する事業については補助事業で対応していくということで、何でもかんでもこの事業ということでは考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

とにかく農地・水の事業と今までの事業をタイアップさせて、すばらしい農業をよみがえらせてほしいと思います。



もう1つでございますが、林業でございます。

日本の高度成長と逆行しまして、とにかく現在では荒れ果てた山林が多くなり、山に行く人もいない、山をする後継者もないということでございます。国も県も林業再生とっていろんな事業をされておりますが、何せ林業というのは長くかかるわけでございます。サイクルが非常に長いということで、効果が即出るとは思っておりません。今現在、武内町で国と県の林務課との連携で事業をやっておるわけでございますが、森林会というのがありまして、ちょっとこれは長いとですけど、吸収源対策森林施業推進活動緊急支援事業というのが林野庁の長官名で出ておりまして、その事業をやっておるわけでございます。これは間伐から山の林道の整備というのも事業として入っておるわけでございます。

今からやる森林保全対策事業と申しますか、そういうものにどういふふうな事業があるのか、ひとつ御説明を願いたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

前田営業部長

**○前田営業部長〔登壇〕**

お答えをしたいと思います。

武雄市内の森林の面積をちょっと調べてみたんですが、武雄市全体、北方、山内含めまして195.44キロ平方メートルの中に、そのうち森林が81.99キロ平米ということで、約42%が森林ということになっております。県全体でも大体45%ですので、大体そう変わりはないということで、非常に大きな面積、ウエートを占めております。

それから、森林が持ついろんな機能がございまして、今、問題になっているようでございます。

そういうことで、国、県、そこら辺の補助事業、そういうのがないのかという質問でございますが、1つには、今うちが取り組んでいるのが森林を守る交付金事業というのがございます。これは森林の荒廃を防ぐためのいろんな事業ができる制度でございます。それからもう1つ、里山エリア再生交付金ということで、これについては過疎化、高齢化の進展に伴いまして、造林事業とか、そういうとに補助金が出るということがございます。

それからもう1点、ことし、県のほうで20年度から5年間をめどに佐賀県森林環境税というのが創設をされておまして、これの使い道につきましては3つほどございまして、まず荒廃森林の再生事業というのが1つございます。それから2点目に、重要な森林の公有化に対する支援の事業、それから3点目に、県民参加で森林づくりをしましょうというこの3つが基本的な柱になっておまして、県の20年度の予算でいきますと約1億6,000万円程度が組まれているという状況でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

7番古川議員

**○7番（古川盛義君）〔登壇〕**

いろんな事業があるわけですが、森林というのはとにかく一度荒らせば、なかなかもとに戻らないということですが。

そこで、山を守るためには山に行く道路が必要でございます。現在は車社会でございますので、林道の整備というのが必要になってくると思います。私がここで言う林道というのは広い通常の林道をつくりなさいということじゃございませんで、軽トラックが入る程度の林道をつくるような事業がないのか。あれば、その事業の内容、そこら辺をお知らせ願いたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

前田営業部長

**○前田営業部長〔登壇〕**

林道の整備でございますが、先ほど言われました大きな事業につきましては20年度は赤穂山内田線ということで舗装改良の事業を予定しております。それ以降については、今のところ予定はございませんが、どっちにしても林道はつくただけでは、後の維持補修が重要になってきます。そういうことで、今後につきましては維持管理に重点を置く必要があるんじゃないかということで考えております。

うちのほうで今現在考えていますのは、先ほど申し上げました国、県の補助金、交付金事業関係、それから県の森林環境税のそこら辺の活用、それともう1つは、今現在、市の単独で生コンの支給等もやっておりますので、2メートル程度の舗装につきましてはそういう予算を活用していただければというふうに考えています。

**○議長（杉原豊喜君）**

7番古川議員

**○7番（古川盛義君）〔登壇〕**

私は昔、資本主義社会は投資イコール貯蓄であると習いました。農林業というのは投資した分がなかなか戻りにくい業種でございます。ですが、とにかく辛抱強くやっていただきまして、武雄の農林業に夢と希望を持てるようにしていただくようお願いをいたしまして、私の一般質問を終わりたいと思います。どうも。